

【天国への手紙

2022年7月23日放送分】

夏の思い出

ラジオネーム：さっちゃん

いよいよ夏休み。当初は「たっぷりある」休みに、あれをしよう、ここに行きたいと、意欲も十分。しかし、休みが始まると時間はあっという間に過ぎていき、生活時間も気持ちもだらだらしていたのは私だけでしょうか。

そんな私のことを見かねたのか、おじいちゃんがいつもの海水浴ではなく、浜辺の散策にだけかけよつと誘ってくれましたね。

山育ちの私は、海沿いの町にあるおじいちゃん家^ちで過ごす夏の1週間が一番の楽しみ。おじいちゃんとおばあちゃんは朝から海辺の台^{はた}で畑仕事。その間じゅう、私たち子どもは泳いだり、砂山を作ったり、磯で蟹を追いかけたり、とりたてのトマトを海水で冷やしておやつに食べたりの・・・日がな一日を過ごしました。

おじいちゃんが浜の散策に行こうと言ってくれたのは、お盆をすぎた頃。私が「自由研究は何にするの?」と母にたしなめられた翌朝でした。おじいちゃんから「おもころいと思っものを探せ」と言われ、私たち子どもは浜辺の植物やら、打ちあがった色とりどりの海藻

やらを見つけて見せ合いました。おじいちゃんは長く理科の先生をしていたから、その都度、植物の名前や特徴を教えてくださいましたね。中でも、海藻の話が面白かった。わかめのようにスリッパのようなもの、スギの葉のようなもの、浮袋がついたものなど、それぞれに名前があって、海でそれぞれの役割があること。今までは、具体的なことは全く覚えていませんが、どこかへおじいちゃんも遊びに行った辺の散策は、夏休みの、いや、子ども時代の温かい思い出として心に残っています。

浜から帰った後、持ち帰った海藻を押し花にして、夏休みの自由研究にしたのは言うまでもありません。ただ、浮袋のついた海藻は厚みがあり、半乾きのまま台紙に貼ったため、学校に提出した時も磯の香りがしていたのをみんなにからかわれて恥ずかしかったあ。これも含めて忘れられない思い出です。ありがとうございます、おじいちゃん。

おじいちゃんのことだから、いついついそうなのよ。今年度の夏休み、すべての子どももまた思い出して、思い出を思い出ができればいいことを願っていますね。

リクエスト曲

＜ 掌の砂

／

EXERCISE

＜

～4分22秒